

福島・チェルノブイリ研究会情報

5月に第一回会合が行われた本研究会は、実践的な活動を通して方向性を確立しようとしています。

7月と8月には飯舘村民と研究者による双方向のプログラムを実施します。

7月については下記の相談会を企画しました。(資料1参照)

8月の企画については現在、策定中のため、一応の趣旨と骨格をお伝えします。みなさまの御提案や、御参加を心よりお待ちしております。(資料2参照)

なお、6月にチェルノブイリの現地調査(トヨタ財団研究助成)を行いました。これはキエフの「チェルノブイリ産業遺産研究所」の協力がなければ実現し得ませんでした。さらに、キエフ大学及びウクライナ工科大学との連携も実現しました。ウクライナ側のこの三つの研究機関とともに、EU研究資金へ共同で助成申請することになりました。ウクライナ側としてはEU研究資金への申請を日本と連携して行なう発想がなかったようです。むしろ日本の国際貢献の一環としてウクライナおよび日本から共同申請する意義は大きく、試みるに値すると考えております。

6月の第一回調査に関しては、現地協力者が作成中のデータが届きしだい、報告いたします。なお6月の同調査を発展させて8月末に第二回目の現地調査を行います。(資料3参照)

資料1 [7月の飯舘村民相談会](#)

資料2 8月は、帰還を断念せざるをえない飯舘村長泥地区を中心に、存亡の危機に瀕している地域文化の聞き取りと画像による記録を作製します。

山津見神社再建と例祭記録も民俗学者の知見を交えて作製する予定です。

資料3 8月の第二回チェルノブイリ現地調査に関しては、ベラルーシ側ポーランドの調査を23日から25日にかけて行い、ついでウクライナに入って、キエフ近郊に暮らすチェルノブイリ原発事故からの強制移住者達の団地で聞き取り調査を行ないます。8月25日以降数日間をかける予定です。

参加希望者はお申し出下さい。